

105 大正4年9月 局長會議における大藏大臣訓示

〔武富時敏〕大藏大臣訓示 大正四年九月十三日 稅務監督局長會議ニ於テ

(前略)

昨年欧州戦亂ノ起リテヨリ既ニ一年有余ニ及ヒ、戦局ノ前途尙予測スルコトヲ得サルハ誠ニ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ、這回ノ戦亂ハ其ノ範圍頗ル広大ニシテ、列強殆ト之ニ関セサルナキヲ以テ、我邦ノ蒙リタル影響ハ単ニ交戦國ノ一員トシテ受クルモノ以外ニ更ニ深甚ナルモノアリ、而シテ其ノ影響ハ各般ノ方面ニ及ヒタリト雖、就中我財政經濟界ノ蒙リタル打撃ハ、特ニ其ノ著シキモノタラスンハアラス

惟フニ一般經濟界ノ變動ハ直ニ租稅ノ賦課徵收ニ影響ヲ及ホシ、納稅者ヲシテ負担ノ重荷ヲ訴ヘ、徵稅ノ苛察ヲ唱ヘシムルモノナルカ故ニ、之カ施行ニ付テハ大ナル注意ヲ要ス、幸ニシテ稅務當局カ斯ノ時局ニ際シ能ク民情ヲ察シテ徵稅ノ円滿ヲ図リ、而カモ特殊事情ノ下ニ在ルニ三稅目ヲ除クノ外、能ク予定ノ收入ヲ拳ケシムルノ成績ヲ示セルハ、本大臣ノ満足スル所ニシテ、稅務當局ノ勞ヲ謝スルモノナリ

各種稅法ハ從來屢々整理ヲ行ヒ、或ハ稅率ノ輕減ヲ図リ、或ハ賦課ノ公平ヲ保タシメ、或ハ徵收ノ簡易ヲ期スル等、銳意改善セラル、所アリタリト雖、其ノ之ヲ實際ニ施行スルニ当リテハ尙改善ヲ要スヘキ點尠カラサルヘシ、諸君ハ部下ノ吏僚ヲシテニ法令ノ命スル所ニ從ヒ、最モ適正ナル施行ヲ期セシムヘキハ勿論、亦平素能ク納稅者ノ担稅力ヲ精査シテ、租稅負担ノ狀況ヲ審ニスルコトニ力メシメ、若シ稅制ノ改廢是正ヲ要スヘキ点アラハ具ニ之ヲ進言シ、

以テ当局ノ参考ニ資セラレンコトヲ望ム

昨年改正セラレタル營業税法ハ、負担ノ軽減ヲ図ルト共ニ新ニ調査委員會ノ制度ヲ設ケテ、動モスレハ官民間ニ起ルヘキ紛争ヲ絶タシメントスルニ在リタリ、今ヤ本年分營業稅ハ該改正税法ノ下ニ賦課ノ手續ヲ了シ、其ノ成績亦良好ナリシハ、稅務当局カ能ク税法改正ノ趣旨ヲ体シ課稅標準ノ調査ニ注意スルト共ニ、調査委員カ和衷協同能ク調査ノ公平適実ヲ期シタルニ因ラスンハアラス、諸君ハ今後一層ノ注意ヲ加ヘ其ノ初メニ得タル成績ヲ失墜セシメス、益々円満ナル施行ヲ見ンコトヲ望ム

營業稅並所得稅ノ施行方ニ付テハ、昨年会同ノ際先任大臣ヨリ縷々訓示セララル、所アリタルヲ以テ、諸君ハ既ニ其ノ方針ニ從ヒ部下ノ監督ヲ行ハレツ、アルヘシト雖、其ノ帳簿検査ハ之ヲ常規トシテ実行セサルコト、及調査上知得シタル營業者ノ秘密ハ絶対ニ之ヲ漏洩セサルコト等ニ付テハ、能ク其ノ趣旨ノ存スル所ヲ部下ノ官吏ニ徹底セシメ、常ニ之カ戒飭ヲ怠ラザランコトヲ要ス

昨年改正セラレタル取引所税法施行ノ成績未タ全ク所期ノ如クナル能ハサルハ遺憾トスル所ナリ、然レトモ取引所ノ改善ハ一朝一夕ニシテ能ク其ノ目的ヲ達スルコト能ハス、諸君ハ宜シク課稅ノ方面ヨリ漸次仲買人ノ不正行為ヲ防遏シ、以テ取引所改善ノ実ヲ挙げシムルコトニ努力セラレンコトヲ望ム

清酒防腐劑「サリチール」酸ハ、昨年戦乱以來全ク其ノ輸入ヲ杜絶シ清酒ノ貯藏上ニ支障ヲ生シ、延イテハ酒造稅ニ及ホス影響少カラサルヲ以テ、政府ハ今回之カ製造供給ニ関シテ計画スル所アリタリ、之ニ依テ明年度ニ於ケル酒造家ノ所要ハ之ヲ充タシ得ヘシト信ス、諸君ハ其ノ公平ナル配給ニ関シ尽力セラレンコトヲ望ム、若シ夫レ明後年以後ニ於ケル供給ニ付テハ、戦局ノ状態如何ニ依リテハ未タ之ヲ予期シ難キカ故ニ、營業者ハ今日ニ於テ宜シク将来ノ計ヲ為スノ必要アルヘシ、諸君ハ部下ノ技術官ヲシテ營業者ノ提撕誘掖ニ努メシメ、予メ万全ノ策ヲ講セラレンコトヲ

要ス

国税徴収ノ成績ハ稅務当局ノ熱心ナル督励ニ依リ年ヲ逐フテ良好トナレルハ誠ニ喜フヘシト雖、未タ納稅者ノ納稅觀念ニ欠陥アルヲ免レス、故ニ稅務官吏ハ平素納稅者ニ對シテハ納稅義務ノ觀念ヲ養成スルコトニ努メ、自ラ徵稅ノ手續ヲ簡便ナラシムルト共ニ、一面市町村等徵稅機關ヲ督励シテ其ノ施設ノ改善ヲ図リ、一層徵稅事務ノ完全ヲ期セラレンコトヲ要ス

社会ノ進歩ニ從ヒ稅務ノ執行益々困難ナラントス、然ルニ前後數回ノ行政整理ニ依リテ稅務官制亦屢々改正セラレ、人員並經費ヲ削減セラレタルモノ少カラサルヲ以テ、事務ノ執行ヲ敏活ニシ能ク時勢ノ要求ニ応スルニハ、一二吏員ノ能否ニ待タサルヘカラス、諸君ハ宜シク吏員ノ選叙ヲ慎ミ才ヲ擧ケ能ニ任シ、各員ヲシテ能ク其ノ職ヲ竭サシメ、兼テ繁文ヲ省キ褥札ヲ廢シ、以テ事務ノ進捗ヲ図リ、稅務行政ノ發揚ヲ期スヘシ

凡ソ官吏ハ公正廉潔ナラサルヘカラス、是レ官吏服務規律ノ命スル所ニシテ、一般官吏ノ遵守服膺ヲ怠ルヘカラサルモノナリト雖、稅務官吏ノ如キ直接人民ノ財産ニ立入り職務ヲ執行スルモノニ在リテハ、特ニ其ノ緊切ナルモノアルヲ認ム、是レ從來機會ノアル毎ニ訓示セラレタル所以ニシテ、諸君ハ部下ノ吏僚ト共ニ常ニ能ク其ノ旨ヲ体シ、漸ク世ニ稅務官吏ノ清廉ヲ認メラル、ニ至リタリト雖、多數ノ官吏中時ニ此ノ美德ヲ傷クル者絶無ニアラサルハ本大臣ノ深く憂慮スル所ナリ、諸君ハ自ラ以テ範ヲ垂レ下僚ノ品性ヲ高潔ナラシメ、其ノ職務ノ執行ニ當リテハ嚴正以テ自ラ守リ寛宏以テ人ニ接シ、情理ヲ尽シテ人心ヲ悅服セシメ、苟モ他ノ指彈ヲ招クカ如キコトナカランコトヲ要ス以上ハ所思ノ大体ヲ述ヘタルニ過キス、要スルニ本大臣ハ諸君カ現下時局ノ甚々重大ナルコトニ顧ミ、能ク部下ヲ董督シテ稅務ノ執行ヲ円満ナラシメ、以テ国家財政ノ基礎ヲ確實ナラシムルコトニ努力セラレンコトヲ切望シテ已マサルナリ、若シ夫レ事務上ノ諮問又ハ協議事項ニ付テハ別ニ提案セシムヘキカ故ニ、慎重審議以テ稅務ノ執行上適切ナ

ル成案ヲ得ラレンコトヲ望ム

(平 12 名古屋 415)

106 大正5年5月 局長會議における大蔵大臣訓示

職第一三五号

大正五年五月三十日

稅務署長殿

熊本稅務監督局長

本月一日稅務監督局長會議席上ニ於ケル大蔵大臣ノ訓示別紙及送付候間、能ク其趣旨ヲ体シ過誤ナキヲ期セラレ度右及通牒候也

武富「時敏」大蔵大臣訓示

大正五年五月一日 稅務監督局長會議ニ於テ

茲ニ諸君ト相会シ所思ヲ述フルコトヲ得ルハ余ノ欣幸トスル所ナリ

一 昨年欧州ノ戦乱勃發以來我經濟界ハ非常ノ激變ヲ來シ、殊ニ外国貿易ハ一時頗ル沈衰シタリシカ、戦乱ノ継続スルニ從ヒ漸次回復シ來リ、昨年ハ遂ニ空前ノ輸出超過ヲ見ルニ至レリ、加之貿易外軍需品ノ売却等多額ニ上リ正貨激増シテ、一方外債ノ償還正貨ノ蓄積ヲ為シ得ルト同時ニ、他方事業資金ノ供給亦潤沢トナリ、事業界漸次活躍ノ兆アルハ誠ニ喜フヘシ、然リト雖、此ノ如キハ主トシテ時局ニ關係アル一部ノ範圍ニ止マリ、時局ニ關係ナキ大多數ノ者、

特ニ農村ノ經濟ハ未タ不振ノ境遇ヲ脱セス、即チ一般經濟界ハ未タ秩序的發達ヲ見ルニ至ラス、寧ロ跛足の変調ヲ呈シ、偏重偏輕ノ状態ニ在リト謂ハサルヘカラス、斯カル状態ノ下ニ於テ賦課ノ公平ヲ期シ、負担ノ權衡ヲ保タシムルハ頗ル困難ニシテ、特ニ慎重ナル注意ヲ要ス、幸ニシテ格別ノ批難又ハ苦情ヲ聞クコトナク、而モ相當ノ成績ヲ挙げツ、アルハ、本大臣ノ大ニ満足スル所ナリ、是レ全ク諸君カ時局ニ際シ能ク其ノ実情ヲ察シ、適當ノ計画ヲ立テ以テ徵稅ノ円満ヲ図リタルニ由ラスンハアラス、本大臣ハ茲ニ諸君ノ心勞ニ對シ感謝ノ意ヲ表セムトス

各種稅法ニ付テハ從來屢々改正ヲ行ヒタルヲ以テ、本年ノ帝國議會ニ對シテハ特ニ著シキ提案ナカリシト雖、而モ新ニ制定又ハ改正セラレタルモノ亦二三ニ止ラス、就中証券代用納付及出納金端數計算ニ關スル法律ノ如キハ、主トシテ納稅者ノ便宜ヲ図リ、又ハ徵稅上ノ敏活ヲ期スル趣旨ニ出テタルモノナルヲ以テ、諸君ハ能ク其ノ趣旨ノ存スル所ヲ了シ、適實ナル施行ヲ為スコトニ注意セラレムコトヲ望ム

稅務官吏カ課稅物件又ハ課稅標準ノ認定ヲ為スハ租稅法規ノ命スル所ニシテ、其ノ必要アルハ勿論ナリト雖、其ノ之ヲ為スニ當リ根拠ヲ欠キ又ハ事實ニ反スルトキハ、皆ニ賦課ノ公平ヲ失スルノミナラス、納稅者ノ物議ヲ惹起スルニ至ルヘシ、稅務当局ハ能ク此ノ点ニ顧ミ周到ノ用意ヲ以テ事ニ當ルヲ要ス、其ノ他稅務当局カ平素能ク納稅者負担ノ狀況ヲ審ニシテ稅法施行ノ結果ニ注意シ、其ノ改善是正ヲ要スル事項ヲ調査スルカ如キ、又營業稅所得稅等ノ申告稅ニ在リテハ、努メテ納稅者ノ誠實ナル申告ヲ促スカ如キ、將來國稅徵收ノ事務ニ付テハ勉メテ其ノ手續ヲ簡便ナラシムルト共ニ、市町村等徵收機關ヲ督勵シテ其ノ施設ノ改善ヲ図ルカ如キ、昨年会同ノ際本大臣ヨリ詳細諸君ノ注意ヲ求メ置キタル事項ニ關シテハ、今更之ヲ繰返ササルヲ以テ、諸君ハ部下ノ官吏ト共ニ著々之カ実行ヲ期セラレムコトヲ望ム

昨年度ニ於ケル清酒防腐劑ノ供給事務ハ、諸君ノ尽力ニ依リ總テ予期ノ如ク其ノ配給ヲ了シタルヲ以テ、酒造業者モ

大ニ満足シタルコトト信ス、尚時局ノ前途ニ鑑ミ本年度ニ於テモ亦同様ノ計画ヲ立テタルヲ以テ、諸君ハ其ノ公平ナル配給ニ関シ尽力アラムコトヲ望ム

稅務官吏ノ服務心得ニ付テハ毎年訓示スル所ナルヲ以テ、諸君ハ常ニ之ヲ服膺シ部下ヲ戒飭指導セラレツツアルハ、本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリ、諸君ハ將來一層吏僚ノ選叙ヲ慎ミ常ニ其ノ品性ノ薰化ニ努メ、以テ官紀ノ振肅ト事務ノ進捗ヲ図リ、苟モ他ノ指彈ヲ招キ又ハ納稅者ノ苦情ヲ惹起スルカ如キコトナカラシメムコトヲ要ス

以上ハ只所思ノ一端ヲ述ヘタルニ過キス、諸君ハ本大臣ノ意ノ存スル所ヲ察シ、部下ノ官吏ト共ニ現下時局ノ重大ナルコトニ顧ミ、又財政ノ前途ハ益々歳入ノ確實ヲ要スルモノアルヲ念ヒ、夙夜電勉以テ稅務行政ノ挙揚ヲ図リ、國家財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトニ努力セラルヘシ、若シ夫レ事務上諮問又ハ協議スヘキ事項ニ付テハ、宜シク慎重ノ審議ヲ為シ稅務執行上適切ナル成案ヲ得ラレムコトヲ望ム

(平 5 熊本 25)

107 大正5年7月 熊本局第一回稅務官吏養成講習會の開催

局報号外 大正五年七月十二日 熊本稅務監督局

第一回稅務官吏養成講習會學術予備試驗委員任命ノ件

監督官 原田宗藏

事務官 河本文一

技師 野白金一

(各通)

第一回稅務官吏養成講習會學術予備試驗委員ヲ命ス

稅務官吏養成講習會講師及担任科目

稅務官吏服務心得、其他修身訓話

民法

行政法

刑法

地租及相統稅事務實習

所得稅及營業稅一般事務實習

第一種所得稅及法人營業稅事務實習

間稅一般事務實習

酒造及醬油稅檢査事務實習

織物稅事務實習

局技手 近藤一男

局属 森文喜

同 浜口哲弥

同 中村継男

同 浜田盛雄

多胡局長

監督官 原田宗蔵

事務官 河本文一

局属 浜口哲弥

同 田川静男

同 柴田伊八

同 中村継男

同 吉村重次

同 植原大助

局技手 橋本克徳

徴収事務実習

局 属 吉富増太郎

会計事務実習

同 山口久美太

醸造法

技 師 野白金一

土地測量法

局 技手 堀江大二

講習期間ハ九月十一日ヨリ四週間トシ、各講座ノ時間割ハ追テ之ヲ定ムルモノトス

(昭59 福岡 119 ↓ 2)

108 大正5年12月 政府又は帝国議会への請願等通信の件

経第一四六〇号

大正五年十二月二十六日

東京稅務監督局印

鰻沢稅務署長殿

別紙ノ通主稅局長「松本重威」ヨリ通牒有之候ニ付、機宜ノ取計相成度
右通牒ス

(別紙)

往第一二五七二号

従来租稅法規ノ改廢及稅務取扱ノ變更等ニ関シ、政府又ハ帝国議会ニ対シ請願陳情ヲ為サムトスル者アルトキハ、其

ノ時々各局ヨリ状況ノ申報ヲ受クルコト、相成居候処、中ニハ何等ノ通信ナキ向モ有之、為ニ其ノ処置ニ付支障ヲ生
スル場合不尠候条、今後若シ右等ノ請願又ハ陳情ヲ為サムトスルモノアルトキハ、速ニ其ノ主張ノ要旨及運動ノ状況
ヲ調査シ、可成時機ヲ失セサル様御申報相成候様致度、此段及通牒候也

大正五年十二月二十一日

松本大藏省主税局長

菅野東京税務監督局長殿

(平 12 東京 121)

109 大正6年4月 税務官署庁舎の工事及び様式

主秘第九〇号

税務監督局及税務署庁舎其他ノ新營工事施行ニ付テハ、従来動モスレハ緩慢ニ流レ辛シテ年度ノ終ニ竣工ヲ告グルカ
如キ傾向有之、為ニ嚴冬ノ期ニ於テ施行ニ支障アルノミナラス、甚シキハ年度繰越ヲ為サルベカラザルニ至ルコト
アリ、此ノ如キハ自然工作物ヲ粗悪ナラシムルノ結果ト相成、国家ノ不利益タルハ申迄モ無之義ニ付、当初ヨリ相当
注意ヲ払ヒ設計其他諸般ノ準備ヲ敏速ナラシメ、可成工事着手ノ時期ヲ早メ、遅クモ其年十二月中ニ竣成セシムル様、
御努力相成度

又庁舎ノ構造ハ堅牢ヲ旨トシ、莊重ニシテ単純質素ナルヲ必要トスルコト勿論ニ候処、近来漸ク外觀野卑ニ流レ官庁
ノ威信ヲ保ツ能ハサルヤノ虞アルハ甚タ遺憾ト存候ニ付、今後設計ノ場合ニハ「クラシック」式又ハ「ルネッサンス」

式ヲ採リ、或ハ之ニ近世式ヲ加味スルコトニシ、其色彩ノ如キモ成ルヘク鼠色ノ如キ中性色ヲ主トシ、建物ノ外觀ヲシテ輕佻ノ感ナカラシメ度、尤内部ハ「セセツシヨ」式手法ヲ用キ、可成構造ヲ簡單ナラシムルハ固ヨリ妨ケナキ義ニ有之、此段及通牒候也

大正六年四月廿四日

松本〔重威〕大蔵省主税局長 印

磯野広島税務監督局長 殿

(平 14 広島 1)

110 大正6年5月 東京局官吏養成講習会規程

訓令第二二号

局 中 一 般
税 務 署

東京税務監督局税務官吏養成講習会規程、左ノ通定ム

大正六年五月二十八日

東京税務監督局長 多胡敬三郎 印

東京税務監督局税務官吏養成講習会規程

第一条 稅務官吏養成ノ目的ヲ以テ、隨時本局内ニ講習會ヲ開設ス

第二条 本局管内判任官ハ可成本講習ヲ了シタル者ヨリ採用ス

第三条 局署雇員ニシテ左記各号ニ該当スルモノハ総テ本講習ヲ受クルモノトス、但文官任用令第六條第五号ノ資格者及稅務官吏ノ經歷アル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 年齡滿二十歲以上ナル者

二 文官任用令第六條第一号乃至第四号ノ有資格者ニシテ、滿六ヶ月以上奉職セシ者

三 前号任用令ノ資格ナクシテ滿一ヶ年以上奉職シ、選抜試験ニ合格セシ者

四 体格検査ニ合格シタル者

第四条 選抜試験ハ前條第一号及ヒ第三号前段ニ該当スル者ニ対シ、本局並ニ各稅務署ニ於テ之ヲ施行ス、但東京市内及市付近稅務署在勤者ニ対スル試験ハ本局ニ於テ之ヲ行フ

第五条 選抜試験合格者及第三條第一号第二号ニ該当スル者ハ、講習開始前本局指定ノ醫師ニ付体格検査ヲ受ケ診斷書ヲ提出スヘシ

第六條 病氣其ノ他止ムヲ得サル事由ニ依リ講習及選抜試験、又ハ体格検査ヲ受クルコト能ハサルモノハ、予メ局長ノ認可ヲ受クヘシ

判任官タルニ適セスト認ムル者及永ク稅務ニ奉職スルノ志望ナキモノハ講習ヨリ除外ス

第七條 選抜試験ハ左ノ科日ニ就キ之ヲ行フ

一 民法 大意(總則)

二 書取

三 作文

四 筆算 (四則 分数 比例)

第八条 選抜試験ハ筆記試験トシ、本局ニ在リテハ局長指命ノ局員四名以上、稅務署ニ在リテハ署長以下上席者四名ヲ試験委員トシ、各委員立会ノ上行フモノトス

第九条 試験問題ハ局長之ヲ定メ封緘ノ俾試験委員ニ交付ス、試験委員ハ各科試験開始ノ都度各委員立会ノ上之ヲ開披スルモノトス

第十条 受験者ハ試験場ニ於テ問題ニ付質問シ又ハ私語スルコトヲ得ス

第十一条 受験者ハ受験ニ必要ナル用紙、鉛筆、小刀ノ外、試験場ニ携帯スヘカラス

第十二条 試験答案ニハ試験場名及受験番号ヲ付シ氏名ヲ記載スヘカラス

第十三条 受験ニ際シ不正ノ行為アリタルモノハ、受験ヲ中止シ又ハ合格ヲ取消スモノトス

第十四条 試験答案ハ科目毎ニ取纏メ試験委員立会ノ上封緘ヲ施シ、試験終了後直ニ局長ニ提出スヘシ

第十五条 試験答案ハ本局試験委員ニ於テ採点スルモノトス

第十六条 試験点ハ百点ヲ満点トシ、各科平均六十点以上一科四十点以上ヲ合格トス

第十七条 講習期間ハ一ヶ月以内トシ、左記ニ就キ之ヲ行フ

本科

一 民法

二 行政法

三 刑法

四 直税 実習

五 間税 実習

六 庶務 実習

別科

一 税務官吏服務心得、並ニ修身講話

二 釀造法大意

三 織物大意

四 土地測量

第十八条 講師ハ本局員又ハ東京市内署長ノ内ヨリ局長之ヲ指命ス

第十九条 講習生ノ使用スル用紙及文具類ハ総テ自弁トス

第二十条 講習ヲ了リタルトキハ本科ニ就キ試験ヲ為シ、合格者ニハ証書ヲ授与ス

第二十一条 第十条乃至第十三条及第十六条ノ規定ハ本試験ニ準用ス

第二十二条 本会開設及選抜試験期日並ニ試験合格者氏名等ハ局報ヲ以テ発表ス

(昭56 東京
2318)

111 大正6年6月 署長會議における局長訓示要領

局長訓示要領 (大正六年六月二十五日 稅務署長會議ニ於テ)

曩ニ署長會議ヲ開催シテヨリ未タ半歲ナラス、今回再ヒ諸君ノ會同ヲ煩ハスニ至レルハ、過般本省ニ於ケル稅務監督局長會議ニ列席シ、大藏大臣ヨリ懇篤ナル訓示ヲ受ケタルヲ以テ、之ヲ諸君ニ傳達スルト共ニ各般ノ事務ニ関シテ諸君ノ協議ヲ求め、兼ネテ親シク指示セントスル所ノモノアルニ由ル

茲ニ大藏大臣ノ訓示ヲ傳達セン

(勝田大藏大臣訓示朗誦)

以上、大臣ノ訓示ハ別ニ之カ写ヲ配付スヘシ、諸君ニ於テモ熟讀玩味シク其ノ趣旨ヲ体得セラレンコトヲ望ム、殊ニ其ノ官紀振肅ニ付キ訓諭セラレタル所ハ、前回諸君ノ會同ニ際シ本官ヨリモ篤ク留意ヲ促シタル所、諸君ト俱ニ更ニ一段ノ用意ヲ加ヘ不測ノ失態ナカラシメンコトヲ期ス、次ニ稅務改善ニ関スル要綱數点ヲ舉ケ改メテ告クル所アラント欲ス

- 一 課稅ノ公平ヲ保チ負擔ノ均衡ヲ図ルハ稅務行政ノ第一義ニシテ、大臣ヨリモ屢々訓示セラレ稅務官吏ノ常ニ服膺ヲ怠ラサル所ナリト雖、事務ノ繁多ニシテ世態ノ複雑ナル之レカ實現甚容易ナラス、未タ以テ理想ノ域ニ到達シタリト認ムル能ハサルヲ遺憾トス、今後愈々此ニ思ヲ致シ部下各員ヲシテ此大方針ノ下ニ統一アル行動ニ出テシムルコトニ関シ一層工夫スル所ナカルヘカラス、若シ夫レ小納稅者ニ対スル調査ノ嚴密ナルニ反シ、大納稅者ニ対スル調査ノ十分ナラサルカ如キ、村部ノ調査比較的周到ナルニ反シ、市街地ノ調査之ニ及ハサルモノアルカ如キハ、往々ニシテ陥リ易ク、而カモ稅務行政上尤忌ムヘキ弊害ナルカ故ニ、此ノ点ニ関シテハ更ニ

精細ナル注意ヲ払ハレンコトヲ望ム

二 大凡租税ノ消長ハ常ニ一般經濟界ノ狀況ト相關連シ、其ノ盛衰ハ稅務行政ト密接ナル關係ヲ有ス、現時各般ノ經濟關係ハ日進月歩絶エス發展ノ機運ニ向ヘルニ際シ、若シ稅務行政ニシテ依然トシテ退嬰的ニシテ旧慣ヲ墨守スルカ如キコトアラハ、遂ニ時勢ノ進運ニ伴フコトヲ得サルヘシ、須ク広ク一般經濟界ノ狀況ニ着目シ、絶エス進取的ニ之ニ適應スル施設ヲ講シ遺憾ナキヲ期スヘシ、常時改善進歩ノ觀念ヲ以テ之レカ研究調査ヲ怠ラサランカ、必ヤ相当ノ方法ヲ案出スルニ至ルヘキナリ、諸君ハ常ニ此ノ思想ヲ以テ部下ヲ督勵シ稅務行政ノ發達ニ資セラレンコトヲ望ム

三 稅務行政ハ単ニ租稅法規ヲ嚴正ニ解釈執行スルヲ以テ足レリト為スモノニアラス、殊ニ近時諸般ノ關係複雑ノ極メ稅務ノ執行益々困難ナラムトスルヲ以テ、其ノ外部官公署及ヒ各種實業団体等ノ共助ニ俟ツモノ頗ル多シ、諸君ハ善ク此ノ傾向ニ鑑ミ平素地方官公署各種団体等ト連絡ヲ採リ、互ニ意志ノ疎通ヲ図リ稅務ノ執行ヲ円満ナラシムルト同時ニ、又一般納稅者ニ對シテハ專ラ懇切叮嚀ヲ旨トシ、其ノ求ムル所ハ審ニ之カ当否ヲ判別シ、情理ヲ尽シテ以テ稅務官署ヲシテ上下ノ信頼スル所タラシメムコトニ留意セララルルヲ要ス

各稅事務ニ関シテハ近く前回会同ニ於テ詳細訓示シタル所アリ、今日ニ於テ変更セラルヘキモノアルヲ見ス、而カモ尚諸君ノ記憶ニ新ナルヲ信スルカ故ニ茲ニ之ヲ繰返サス、唯当面ノ第三種所得稅調査ニ就キ申述スルニ止ムヘシ

一 申告獎勵ニ付テハ曩ニ特ニ通達シタル所モアリ、將來一層ノ留意ヲ望ム、第三種所得稅調査ハカメテ各種資料ノ蒐集ヲ周到ニシ、且標準率ノ適平衡平ヲ図ルヲ最肝要トス、資料ハ普ク之ヲ外部諸方面ニ蒐メ之カ充実ヲ期スヘキハ勿論、營業稅相統稅其ノ他ニ関スル課稅資料ノ共通の利用ヲ忘ルルカ如キコトアルヘカラス

二 先年來施行シ來レル田畑等級調査ノ結果ヲ田畑所得調査ニ応用スヘキ方法程度如何ハ、管内農業所得調査上尤

攻究ヲ要スル所ニシテ、過般此点ニ関シ既ニ大体ノ意見ヲ徴シタルモ、尙本會議ニ於テ充分ノ審議ヲ重ネンコトヲ希望ス

三 時局ノ影響ニ依リ所得ノ状態ニ著シキ変化ヲ及ホシタルモノ少カラサルハ、諸君ノ疾ニ認知スル所ナルヘシ、此等ニ對シテハ深ク其ノ内容ヲ察シ、調査ヲシテ実情ニ適応セシムルニ付キ相當備フル所ナカルヘカラス

四 誤謬訂正又ハ審査決定ニ依リ当初決定額ノ更訂セラルルモノ尠少ナラサルハ遺憾ニ堪ヘス、能ク其ノ原因ノ存スル所ヲ探リ過誤ヲ再セサルノ覺悟アルヲ要ス

五 署員ヲシテ比較的長期間ニ亘リ繼續シテ出張調査ニ從事セシムル場合多キカ如シ、是一ハ管内ノ地域極メテ広汎ナルニモ因ルヘク、随テ此等出張員ニ對スル行動ノ監督並ニ其ノ調査振ノ統一ニ付テハ特ニ注意ヲ望マサルヲ得ス

六 調査委員會ニ對シテハ克ク其説明ヲ懇篤ニシテ疑惑無カラシメ、以テ円満ナル決議ヲ得ルヲ念トセサルヘカラス、但徒ニ平穩ヲ庶幾シテ不当ノ決議ヲ默過シ、若クハ漫ニ提案ヲ修正シテ事実ヲ装ハントスルカ如キハ因ヨリ採ラサルナリ

一般世運ノ進歩ニ加フルニ本道比年ノ開發ヲ以テス、当局管内ニ於ケル稅務ノ分量ハ急激ノ増加ヲ示シ、其ノ内容亦益々複雑多岐ナラントスルハ自然ノ數ナリ、而カモ定員經費必スシモ之ニ伴ハス、吾人一段ノ努力ニ依ルニ非サレハ到底其ノ職司ヲ完フスルコト難シ、冀クハ諸君愈々操守ヲ嚴ニシ身神ヲ健ニシ、精勵部下ヲ率ヒ以テ國運ノ向上ニ資スル所アラシコトヲ、別案諮問事項其ノ他ニ関シテハ腹藏ナク所見ヲ開陳セラレンコトヲ望ム

勝田〔主計〕大藏大臣訓示

大正六年五月七日 稅務監督局長會議ニ於テ

諸君、本大臣ハ昨冬命ヲ拝シテヨリ、茲テ始メテ諸君ヲ会同シ稅務執行ノ方針ニ関シ所懷ヲ述フルノ機會ヲ得タルヲ喜フ

歐洲戰亂勃發以來今ヤ殆ト三年ニ垂ントシ、我經濟界ニ対スル影響頗ル重大ナルモノアリ、而シテ租稅ノ收入ハ所期以上ノ成績ヲ挙ケ、大正五年度ニ於テハ前年度ニ比シ約三千六百万円ノ增收ヲ得ルニ至レリ、是レ主トシテ時局ノ影響ニ基クト雖、亦諸君ノ努力ニ依ルモノ尠シトセス、深ク諸君ニ感謝スル所ナリ

稅務執行ノ方針ニ関シテハ已ニ屢次訓示セラレタル所ナルカ、要ハ所謂賦ニ厚薄ノ弊ナク、民ニ勞逸ノ偏ナカラシムルニ在リ、諸君カ法ヲ執行スルニ際シテハ一ニ此ノ根本方針ニ拠リ、極メテ適實衡平ナル課稅ヲ為スヲ以テ要締ト為ササルヘカラス、而シテ納稅者ニ対シテハ常ニ同情ノ心ヲ失ハス情理並ヒ行ハレ、納稅者ヲシテ喜ンテ其ノ負擔ヲ受ケシムルニ努メサルヘカラス、此ノ如クニシテ始メテ稅務執行ノ神髓ヲ得タリト謂フヘシ

稅務ノ執行ニ当リ能ク此ノ神髓ヲ体得シ、以テ司稅機關ノ機能ヲ發揮セシムルニハ、一面稅務官吏ノ訓練養成ニ注意セサルヘカラス、稅務官吏ノ訓練養成ニ関シテハ各局已ニ施設スル所アリト雖、未タ十全ノ効果ヲ發揮スルニ至ラサルヲ以テ、諸君ハ今一段ノ工夫ヲ加フルト共ニ、深ク部下吏僚ノ性行伎能ヲ查察シテ逸材ヲ拔擢シ能ク適材ヲ適所ニ配置シ、以テ向上邁進ノ氣運ヲ作興セシメサルヘカラス

稅務執行ノ方針ハ上來所述ノ如シト雖、職ヲ稅務ノ要衝ニ奉スル諸君ハ、單リ現行ノ稅法ヲ完全ニ適用スルヲ以テ足レリトスヘカラス、惟フニ現行ノ租稅制度ハ数次ノ整理ヲ經タリト雖、尚幾多改善ノ余地ナシトセサルヘシ、況ヤ歐洲ノ戰亂一度ヒ終熄スルノ時ニ於テハ、我國ノ經濟界モ之カ影響ヲ受クヘク、隨テ租稅ノ負擔ヲ適實ニシ戰後ノ經營ヲ完カラシメンカ為ニハ、租稅制度ノ上ニ於テ特ニ綿密周到ナル調査考究ヲ要スルモノアルヘシ、諸君ハ深ク此ノ點ニ留意スルヲ要ス

国税徴収成績ノ良否ハ国庫ニ影響スル所尠カラサルノミナラス、亦国民風教ノ上ニ至大ノ關係ヲ有ス、幸ニ稅務當局多年苦心ノ結果年ヲ逐フテ好成績ニ向ヒツツアリト雖、尚未タ改善ノ余地ナシトセス、諸君ハ能ク地方当局トノ連絡ヲ密接ニシ成ルヘク納稅者ノ便宜ヲ図リ、以テ苦心經營漸クニシテ馴致シタル良傾向ヲ助長シ、一層円満ナル成績ヲ挙げムコトヲ望ム

租稅ノ賦課徴収ト共ニ稅源ノ涵養ニ付テモ亦大ニ考慮ヲ加ヘサルヘカラス、酒類醬油ノ如キ直接課稅ノ目的トナルヘキ生産業ニ關シテハ特ニ専門技術官ノ配置アリ、諸君ハ能ク此等ノ技術官ヲ指揮シテ當業者ヲ指導啓発スルト共ニ、課稅ニ關係アル其ノ他ノ商工業ニ對シテモ、常ニ其ノ誘掖助長ヲ以テ念トナシ深ク稅源ノ培養ニ注意スルヲ要ス凡ソ官吏ノ忠順清廉ナルヘキコトハ服務規律ノ命スル所、殊ニ職ニ稅務ニ從フ者ノ最モ廉潔ナラサルヘカラサルコトハ、既ニ毎次訓示セラレタル所ニシテ、諸君ハ普ク部下ノ吏僚ヲ董督シ苟モ他ノ指彈ヲ受クルカ如キコト無カラシムルニ努メツツアルヘシト雖、多数官吏ノ中ニハ時ニ其ノ職司ヲ瀆ス者アルヲ見ル、是本大臣ノ常ニ憂慮措カサル所ナリ、諸君ハ須ク一層此ノ點ニ顧念シ深ク思フ官紀ノ振肅ニ致シ、以テ万一ノ非違ナカラシメンコトヲ要ス以上ハ、本大臣所思ノ一端ヲ述ヘタルニ過キス、其ノ詳細ニ至リテハ議事ノ進行ニ伴ヒ主務局長ヲシテ指示セシムル所アルヘシ、諸君ハ能ク本大臣ノ意ノ存スル所ヲ体シ稅務ノ行政ヲ振作シ、以テ益々其ノ成績ノ挙揚ニ努力セラレンコトヲ望ム

112 大正6年7月 稅務署一般監督結果

大正六年七月九日

大阪稅務監督局長 楠 正篤

茨木稅務署長殿

過般大阪市内五稅務署及神戸稅務署ノ一般監督ヲ執行シタル実績ニ徴スルニ、此等各署ノ努力ハ現在ノ人員及經費ノ程度ニ於テ相当ノ事績ヲ挙げケツ、アルヲ知ルニ足ルト雖モ、未タ尚ホ緊張充實ノ域ニ達セサルモノアルヲ遺憾トスル所ニシテ、更ニ一層ノ奮勵ヲ要スヘキハ別紙審理、整理、注意事項、總件數表ノ示ス所ニ依リ明ナルカ如ク、而シテ監督執行ノ結果事務改善ノ要綱ト認ムヘキモノ、又左記ノ通ニ有之候条、日常執務上右ニ鑑ミテ着々改善ノ実ヲ挙げラレ候様致度、此段及通牒候也

記

監督執行ノ結果ニ於ケル主要ナル改善要綱

- 一 都会生活ノ余弊ヲ受ケ署員ノ風紀緊張ヲ欠クモノナキニアラサルヲ以テ、精神的努力ノ美風ヲ養成スル為メ適當ナル施設ヲ講スルノ最モ重要ナルコト
- 二 地租事務従事員ノ法律智識比較的乏シキ為メ執務上往々機械的ノ弊ニ陥リ、宅地分割処理ノ如キニアリテモ表坪ト裏坪トヲ平均地価ニテ分配セルモノアリ、稅務の常識ノ修養ニ努メシムルノ必要アルコト
- 三 法人所得ノ申告誠実ト認メ難キモノ、類之レアルニ付往々実査ヲ要スヘキノ処、此ノ種ノ事務ニ熟スル者比較的少キカ為メ其ノ周到ヲ期シ難ク、又従事員ノ地位余リ高カラサルヲ以テ、稅務執行ノ權威充分徹底セサル嫌ナシ

トセス、署員配置上考慮ヲ要スルト共ニ、此等事務従事者ニ対シ会計学ノ素養ヲ向上セシムル為メ、講習其ノ他適當ナル施設ノ必要アルコト

四 營業稅又ハ所得稅調查ノ基礎精査ヲ要スルモノ少カラス、就中營業稅ニ於ケル売上金、法人營業者ノ資本、所得稅ニ於ケル算出ノ基礎タル各種收入金及標準等ハ勿論、貸家調査ノ如キニ在リテ今後尚ホ其ノ歩ヲ進ムルノ必要ヲ感ス、然ルニ之等物件ノ増加膨脹ト従事者數トノ關係不十分タルヲ免レサルカ為メ、各種調査簿等ノ整理ニ於テスラ遺憾ナキヲ保シ難キ現況ナリ、篤ト稽查ヲ遂ケ適実ヲ期スルノ必要アルコト

五 相續稅ト他ノ直稅トノ連絡充分ナラサルノミナラス、概シテ課稅不充實ノ嫌アルヲ以テ、前記營業稅、所得稅等ト同様尚ホ施設ヲ周密ナラシムルノ必要アルコト

六 間稅事務ニ在リテハ輸出入其ノ他ノ關係ニ基ク免戻稅事務激増ノ結果、此等普通檢査ニ忙殺セラレ一般ニ監視ノ余裕ヲ存セス、而モ其ノ檢査事務ニ在リテモ檢査簿其ノ他書類ノ整理渋滞シ、關係各署トノ照査不充分ナルカ為メ、通知價格又ハ數量ト之レニ対スル處理トカ相一致セス、又ハ其ノ一致スルヤ否不徹底ノ觀アルヲ免レサルノ状アリ、尤モ大正五年度ニ於テハ砂糖實量査定ナル特別事務ノ存シタルコト如上ノ欠漏ヲ生シタル主因ナルヘク、又行政整理其ノ副因タリシヲ疑ハス、本年度ニ在リテハ此ノ如キコトアラサルヘキヲ以テ、予メ事務計畫ヲ適切ニシ以テ間稅一般事務ノ處理宜シキヲ得セシムルノ必要アルコト

七 酒類ノ大集散地ニ於ケル酒類又ハ酒精ノ取締ハ、其ノ必要毫モ原產地ニ譲ラサルヲ以テ、之レカ取締ノ周到ヲ期スルコト

八 工業用酒精使用承認ニ關シ、酒精變性製造操作等該工業ニ対スル一般智識欠如セルカ為、檢査取締動モスレハ形式ニ流レ、唯前檢査ノ轍ヲ追フテ漸ク檢査ヲ執行セルカ如キ跡アリ、依テ本年度ニ於テハ間稅ノ比較の閑散ノ時

季ヲ見計ラヒ、免戻稅事務ニ關スル必要科學及其ノ實務取扱上ノ講習ヲナス見込ナルコト

九 一般間稅事務ニ付テモ右ニ準シ、各署少壯間稅官吏中ノ若干ニ對シ簡易講習ヲ為ス見込ナルコト

十 市町村徵收ニ係ル國稅ノ送納往々延滞ノ嫌アリ、是レ大都市ニ在リテハ郵便局扱ニ係ルモノ、取纏通知遲着スルノ影響タルヘシト雖モ、亦適テ市町村ノ督勵事務未タ緩急宜シキニ適セサルニ出ツルモノアリト認メラル、ニ付、更ニ之レカ徹底ヲ図ルノ必要アルコト

十一 稅務署直接徵收ニ係ル國稅ノ滞納点々之レアリ、是レ畢竟市町村徵收ニ係ルモノニ對スル助力的督勵ニ忙殺セラル、ノ結果、不知不識事茲ニ至ルト認メラル、ニ付更ニ注意ヲ周到ニシ、苟モ此ノ如キ欠点ナキヲ期スルコト

十二 庁費分配予算ニ對スル使用計畫ニ具體的根拠ヲ欠キ、年度間往々流用増減ノ已ムナキニ陥レル向アリ、又出張命令ト其ノ実績トノ連絡不完全ナルカ為、旅費ト車賃トノ区分ヲ誤リ、其ノ他物品ノ處理不適合ノモノ等會計事務ヲ稍閑却スルノ弊ヲ矯正スルノ必要アルコト

十三 統計及文書等ノ事務ニ付テモ、趣味ヲ以テ事ニ当ルノ風ヲ養成セサルヘカラサルコト

等ハ即チ喫緊ノ改善要綱ナリト認ム、依テ直接間接ニ局署員ノ思想ヲ益々緻密ナラシメ、以テ能率ノ増進方法ヲ図ラムトス

審理、整理、注意事項總計數表〔省略〕

(平5 大阪 3-2)

113 大正6年7月 庶務課員の確保

秘第一二二号

大正六年七月十一日

熊本稅務監督局

稅務署長殿

庶務課事務ハ會計、徵收何レモ其ノ事務ノ複雑ニシテ其ノ整理ハ緻密ヲ要シ、特ニ徵收事務ノ如キハ稅務行政上最重要ナル事務ニ屬シ、賦課ハ徵收ノ完全ナルニ依リテ初メテ其ノ効果ヲ表現ス、本局現時ニ於ケル納稅改善納稅保全ニ関スル事務ノ如キ、外部官公署民部トノ折衝ニ、將又内部事務ノ整理ニ人材ヲ要スルコト益々急ナリ、而モ事務ノ性質並沿革上動モスレハ他課事務ヨリモ輕視セラレ、有為ノ人物ハ多ク転課ノ希望ヲ抱キ、偶々他課ヨリ庶務課ヘ転スルモノアレハ、本人ハ勿論他ヨリモ亦左遷的ノ意味ニ解スルガ如キ傾キアリ、今日庶務課員中ニ於ケル人物ノ扠底ハ全ク此ノ点ニ在ル如ク、又從テ一旦庶務課長若ハ課員中ニ欠員ヲ生シタル場合ノ如キ、之カ補充ニ頗ル困難ヲ感スルノ狀況ニシテ、稅務執行上憂慮ニ堪ヘサル処ナリ、就テハ此際広ク直稅及間稅課員ニ涉リテ適材ヲ求メ、之等ニ對シ講習ノ開催等ノ方法ニ依リテ庶務課員トシテ必要ナル事項ニツキ訓練シ、以テ優良ナル庶務課員ヲ養成スルノ途ヲ講セントス、尙將來有為ノ適材ニシテ進ンテ庶務ノ任ニ當ラントスルモノハ、將來之カ優遇ノ途ヲ講スル計畫ナリ、依テ此ノ際右ノ趣旨ニヨリ庶務課員希望ノモノアラハ、意見ヲ付シ其ノ氏名ヲ申報セラルヘシ

(昭58 福岡 16)